

第1回「乙訓 地方自治研究集会」2/24

参加者122名 有意義な学習と交流

当日は雪の降る寒い日でしたが、多くの参加で大変勉強になり 今後の地域を考えるとくみをすすめる上で、最初の一歩になる研究集会となりました。今回の研究集会に参加した参加者から、次の様な感想がありました。「今まで自治体職員としては恥ずかしいことだと思いますが、地方自治について考えたことがなかったので、なかなかわからなかった(ごめんなさい)のですが、これだけたくさんの方が集まってくれたことに感謝しています。」

集会を支えていただきましたスタッフ、講師の小森先生をはじめ助言者の方々、参加者のみなさまに感謝いたします。



研修集会にメッセージを寄せてもらいました。

- 大山崎町長
- 真鍋宗平さん
- 新婦人大山崎支部支部長
- 池田広子さん



午前中に全体会

小森治夫さん(京都橘大学教授)が、「地方分権改革と府県制、道州制」と題して記念講演

研究集会の午前中は、小森さんの記念講演を行いました。小森さんは現在の地方自治問題の一つの焦点になりつつある「道州制」問題をとりあげ、自らが府の職員だったことから、府と市町村のあり方も踏まえた内容でした。参加者からは「レジメを見ると難しいのですが、小森先生のお話はわかりやすかったです。国は税金だけいっぱいとおいて、地方自治体には金でしばりをかけて、思うままにしようとする。なんとね～、日本全国お金が支配されてるんやと改めて思いました。こんなことにも関心もたんとねと思いました。」という感想が寄せられています。



研究集会事務局(自治労連乙訓地協幹事を中心に構成)は3月12日に「反省会」を、3月26日に「ご苦労さん会」を行いました。反省会では、第1回研究集会の運営についての意見や感想を出し合いいくつかの点で確認しました。参加者が「これからも続けてやりたい」と言う意見や、これを機会に福祉や保育、まちづくりなどの勉強と研究、「地域を知る」とくみを強めたいという意見も多くあったことを確認し、今年の10月の全国地方自治研究集会が京都であることに、どのようにつなげていかなどを考えようと言うことにもなりました。

そこで、これからの「乙訓 地方自治研究活動」をどのようにすすめるのか、企画と意見を交流し方向を出す会議を5月14日(水)午後6時30分から 大山崎町職書記室 で行います。乙訓地協幹事を中心に開かれた会議ですのでご出席を呼びかけます。事務局長は向日市職労委員長の人長さんです。

乙訓自治研がめざす こどもの笑顔 住みよい環境 生き生きとした暮らし

午後から4つの分科会で参加者は101名でした。

保健・医療・福祉分科会

助言者 山本繁さん(元尼崎市医務監)

参加者は17名。地域の医療機関、福祉施設などからも報告をもらいました。テーマは「医療・福祉構造改革の中で、後期高齢者医療制度、特定健診・保健指導、自立支援法等の問題点や課題を報告してもらい、社会保障について考えましょう」というものです。参加者からは「自治体の保健師さんから特定検診の進み具合とか、問題点をお聞きすることができて、たいへん勉強になりました。障害者自立支援法の問題点も現場の方からお聞きすることができて良かった。」という感想でした。



食と食育を考える分科会

助言者 谷口恭子さん(栄養士)

参加者は19名。分科会テーマは、「生産者、消費者から報告、食の実態、食は安全か、民間委託後はどうなっているか昨年一年間を表現する漢字は『偽』食品をめぐる偽装が次々と次代を担う子どもたちに、より豊かな食をまともな食生活をいっしょに考える」というものです。準備がうまくいなくて...」というのがスタッフの感想でしたが、「食育、特に生産者の話を詳しく聞いてよかったです。身近でありながら遠い感のある生産者の苦勞や望など実感の伴うお話でした。」や「向日市の学校給食では地元産の新鮮な野菜を使用していて、農家の方のお話も聞いて良かったです。二市一町での休職の状況なども知ることができたので良かったです。」という参加者からの感想が寄せられました。



子どもの育ち分科会

助言者 土居眞さん(医療少年院院長)

参加者が45名と一番多かった分科会です。テーマは「子どもの育ちにとって、今何が必要なのか。保育所・学校・学童保育所でみせる子どもの姿を出し合い、みんなで考えましょう」というもので、乙教組の先生からの報告も交え熱心に学びました。参加者から「土居先生の話、よくわかりました。面白かったです。子どもはいつか自立した一人の人間(大人)になることを心に思って、より良き成長を目指して、子どもの保育にかかわっていきたいと思います。」という感想が寄せられています。



水と緑とまちづくり分科会

助言者 竹林光美さん(建築家)

参加者は17名。向日市北部まちづくり考える会、長岡京市「氷の会」、大山崎「まちづくり運動」からの報告を受けて話し合いました。テーマは「乙訓のまちのそこ、ここで、なにがおこっているのか。乙訓はどんな『まちづくり』をめざすのが良いのか」です。参加者から「交流ができて良かった。ハード面だけでなく、ソフト面でのまちづくりについても話せる時間があればもっと良かった。」や「中川さんの報告がわかりやすく、良かった。次はフィールドワークで現地を見て歩けるような機会がほしい。」が出されました。



